

各森林管理局の国際森林年関係イベントの実施状況

平成23年12月27日

林野庁国有林野部経営企画課

(取りまとめ)

- 全7局において、600回を超える国際森林年関連イベントを開催。
- そのイベントへの参加者総数は120万人以上にも達する。
- イベントのなかで、新規に、国際森林年記念イベントとして特別企画されたものは93イベント、参加者総数は100万人を超える。

森林管理局	項目	国際森林年特別企画(新規)	例年イベントに特別企画付加	例年イベントに国際森林年の趣旨啓発付加	計	備考
北海道	イベント数	16	78	13	107	これまでの代表事例→P2~4
	参加者数	424,320	55,050	14,720	494,090	
東北	イベント数	12	3	20	35	これまでの代表事例→P5~6
	参加者数	1,680	576	2,603	4,859	
関東	イベント数	14	14	68	96	これまでの代表事例→P7~8
	参加者数	578,198	12,116	20,944	611,258	
中部	イベント数	24	63	41	128	これまでの代表事例→P9~10
	参加者数	1,986	7,621	3,941	13,548	
近畿中国	イベント数	13	12	65	90	これまでの代表事例→P11~12
	参加者数	1,939	2,003	33,901	37,843	
四国	イベント数	10	15	86	111	これまでの代表事例→P13~14
	参加者数	571	33,512	4,482	38,565	
九州	イベント数	4	3	47	54	これまでの代表事例→P15~16
	参加者数	600	800	4925	6,325	
計	イベント数	93	188	340	621	
	参加者数	1,009,294	111,678	85,516	1,206,488	
	イベント割合	15%	30%	55%	100%	
	参加者数割合	84%	9%	7%	100%	

(注1)本表は、平成23年12月末現在の実績を整理したもの。

(注2)イベント数は、局署等の主催・共催及び実行委員などへの直接の参画を含めたもの。

(注3)参加者数は、イベントへの参加者数である(一部、推定も含む)。

国際森林年記念シンポジウム

北海道森林管理局



9月11日、札幌市男女共同参画センターにおいて、国際森林年記念シンポジウム「森を歩いて感じよう！森林から始まる北海道の未来」を開催。シンポジウムでは、国際森林年子ども大使による国際森林年アピール宣言や溝畑宏観光庁長官の記念講演、パネルディスカッション、国際森林映画祭参加作品「葉っぱのフレディーいのちの旅」の上映を実施。

【日時】平成23年9月11日(日)
 【場所】札幌市男女共同参画センター3階ホール
 【主催】北海道森林管理局
 【後援】北海道運輸局、北海道農政事務所、北海道、札幌市

【協力】(社)北海道アイヌ協会、北海道アウトドアガイド協会、北海道木材青壮年団体連合会、北海道森林インストラクター会、NPO法人ナショナルトラスト・チコロナイ、木育ファミリー、日本森林保健学会
 【特別協力】国際森林年国内委員会事務局
 【参加者数】約200人



2011・国際森林年

国際森林年アピール宣言

こんにちは！私たちは、国際森林年子ども大使です！国際森林年の国内テーマは「森を歩く」。

森は、二酸化炭素を吸って、きれいな空気に変え、地球温暖化を防いでくれます。森に降った雨はきれいな水となり、川から海へと流れ込んで、豊かな恵みを与えてくれます。

私たち人間にとって、森は、大切なお友だちです。森が元気だと、地球も元気になります。青い地球が青いままで、緑のいのちが緑のままで、元気に生き続けますように。みんなで力を合わせて、元氣な森を育て、守りましょう！

国際森林年たすきリレーセレモニー



北海道森林管理局では、「森づくりイベントリレーin国際森林年～森を歩こう～」と題し、北見-旭川-帯広-函館-札幌の各地区で行うメインとなるイベントをリレー方式で開催することで、たすきと共に国際森林年の意義を多くの道民の皆様にお繋ぎし、お伝えする機会としました。

「森づくりイベントリレー」のアンカーである本シンポジウムでは、道民の皆様への森づくりへの思いと共に北海道各地を巡った「国際森林年のたすき」を森林や林業の大切さ、「森林から始まる北海道の未来」を全国に発信していただきたいとの願いをこめて、津元局長から国際森林年子ども大使に引き継がれました。



国際森林年子ども大使
ミュージカル「葉っぱのフレディー」

記念講演 「観光立国の推進と森林の可能性」



観光庁長官 溝畑 宏 氏

パネルディスカッション「森を歩いて感じよう！森林から始まる北海道の未来」

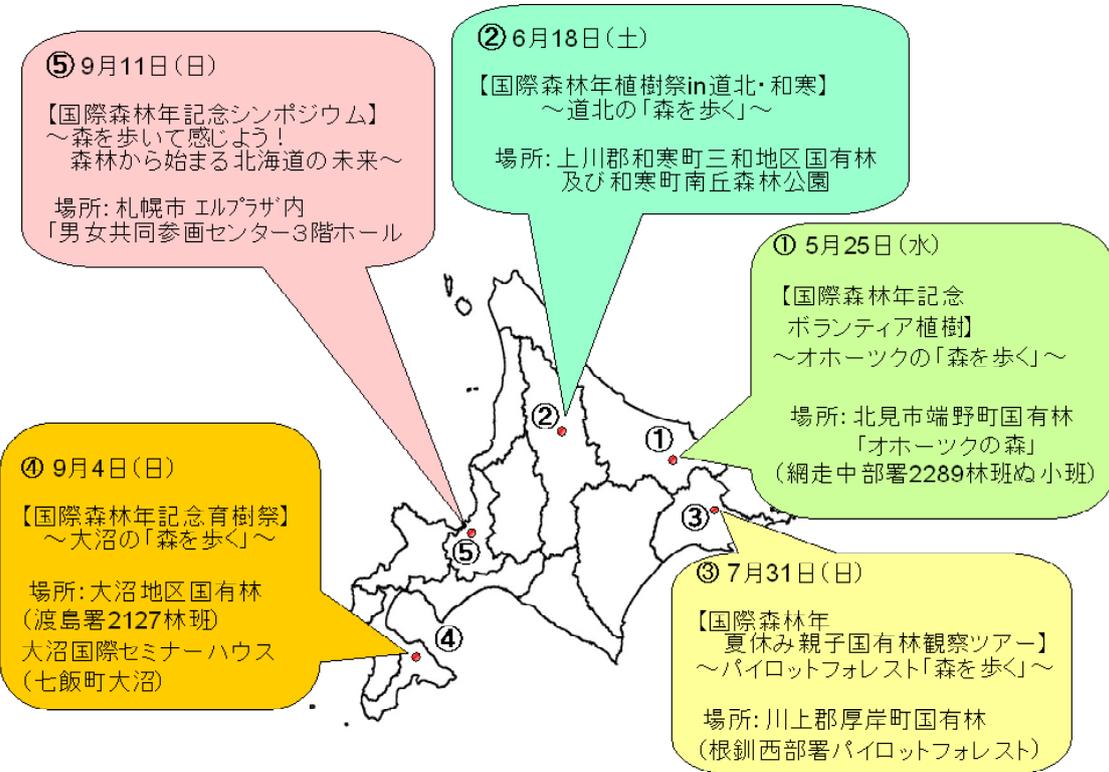


左から(敬称略)

【ゲストコメンテーター】溝畑 宏(観光庁長官)、【コーディネーター】柿澤 宏昭(北海道大学大学院農学研究院教授、森林・林業基本政策検討委員会委員)、【以下パネリスト】松本 芳樹(北海道森林管理局企画調整部長)、瀧澤 紫織(医療法人こぶし植苗病院精神科医師、日本森林保健学会事務局長)、貝澤 耕一(NPO法人ナショナルトラスト・チコロナイ代表、平取アイヌ文化保存会事務局長)、煙山 泰子(KEM工房主宰、木育ファミリー代表)、吉田 良弘(株式会社ヨシダ代表取締役、北海道木材青壮年団体連合会事務局長)、三木 昇(北ノ森自然伝習所主宰、北海道アウトドアガイド協会理事長)

北海道森林管理局 森づくりイベントリレーin国際森林年 ～森を歩こう～

北海道森林管理局では、「森づくりイベントリレーin国際森林年～森を歩こう～」と題して北見-旭川-帯広-函館-札幌の各地区で企画された国際森林年のメインイベントを「たすき」と共に北海道各地を巡るリレー方式で開催し、国際森林年の意義や森林・林業の大切さを多くの道民の皆様にお伝えする機会としました。



① 北見地区【国際森林年記念ボランティア植樹】～オホーツクの森を歩く～

参加者数：230名 内容：植樹および森林散策（ガイドウォーク）



② 旭川地区【国際森林年記念植樹祭】～道北の「森を歩く」～

参加者数：200名 内容：植樹（森林散策は荒天により中止）



③ 帯広地区【国際森林年 夏休み親子国有林観察ツアー】

～パイロットフォレスト「森を歩く」～

参加者数：40名

内容：森林内の散策と写真撮影、望楼の見学、木工、炭焼き体験



④ 函館地区【2011国際森林年記念育樹祭】～大沼の森を歩く～

参加者数：150名

内容：育樹作業（枝打ち、小径木伐倒）、コンサート、森林散策



⑤ 札幌地区【2011国際森林年記念シンポジウム】

～森を歩いて感じよう！森林から始まる北海道の未来～

参加者数：207名

内容：国際森林年アピール宣言（国際森林年子ども大使）、記念講演（溝畑宏観光庁長官）、パネルディスカッション（ゲストコメンテーター：溝畑 宏（観光庁長官）、コーディネーター：柿澤 宏昭（北海道大学大学院農学研究院教授、森林・林業基本政策検討委員会委員）、パネリスト：瀧澤 紫織（医療法人こぶし植苗病院精神科医師、日本森林保健学会事務局長）、貝澤 耕一（NPO法人ナショナルトラスト・チコロナイ代表、平取アイヌ文化保存会事務局長）、煙山 泰子（KEM工房主宰、木育ファミリー代表）、吉田 良弘（株式会社ヨシダ代表取締役、北海道木材青壮年団体連合会事務局長）、三木 昇（北ノ森自然伝習所主宰、北海道アウトドアガイド協会理事長）※以上敬称略、松本 芳樹（北海道森林管理局企画調整部長）、国際森林映画祭参加作品上映（「葉っぱのフレディーいのちの旅」）

「白神を考える旬間シンポジウム」と「森を歩く集い」

東北森林管理局

【開催年月日】平成23年9月10日～
9月11日

【参加者数】シンポジウム 約120名、
森を歩く集い 約60名

【イベント開催趣旨】東北森林管理局は、毎年9月上旬を「白神山地を考える旬間」として、白神山地に関する各種行事を集中的に実施。今年は、国際森林年企画として、局主催により9月10日に「白神を考える旬間シンポジウム」を、また、翌11日に「森を歩く集い」を開催。



局長挨拶

【イベント概要】

① シンポジウム

- (1) 「地球環境と森林」早稲田大学教授 森川 靖 氏
- (2) 「ブナ林の変化をさぐる」東北大学教授 中静 透 氏
- (3) 「白神山地に棲む鳥類の動向」岩手県立大学名誉教授 由井 正敏 氏

シンポジウムは、弘前市の弘前市総合学習センターを会場に、「変化する白神山地の自然を探る」をテーマに、気候（気候変動）、植物（森林生態系）、動物（鳥類、猛禽類）に焦点を当てて、後世に残す自然遺産としての価値やその保全管理手法について、学識経験者3名による講演。当日は、地元住民のほか、大学生や白神山地のガイド関係者など約120名が出席し、地元の住民と知見を共有。



講演の様子



意見交換の様子

シンポジウムでは、森川教授から、多くの緑化プロジェクトが行われている現状等が紹介され、自然科学だけでなく人間科学にも基づいた環境保全のシステムの必要性について詳しく説明。中静教授から、白神山地での長年のモニタリングの結果をもと

に、これまでのブナ林の変化を紹介し、今後のブナ林の変化について他地域の事例などを用いてのシミュレーション予測結果を披露。また、由井名誉教授から、白神山地やその周辺におけるクマゲラやイヌワシの営巣や繁殖の実態等が紹介され、ヘビなどの餌となる動物の変化や、地球温暖化などによる影響の可能性を示唆しつつ、列状間伐の導入等による採餌環境の向上対策の必要性が述べられました。

② 森を歩く集い

国際森林年の国内テーマ「森を歩く」にちなみ、実際に一般の方々に白神山地を歩いてもらい、自然遺産の価値を散策しながら体感してもらうよう、

(Ⅰ) 暗門の滝、(Ⅱ) 高倉森などブナ林(青森県西目屋村)、(Ⅲ) 田苗代湿原と岳岱自然観察教育林(秋田県藤里町)の3コースで実施。



高倉森などブナ林コースの様子



暗門の滝コースの様子

なお、参加者は、青森県や秋田県内外から一般参加者や関係者など約60名。

当日の青森県は朝から雨というあいにくの天気の一部行程の変更があったが、地元でガイドを行っているマタギの工藤光治氏、工藤茂樹氏らの案内により、参加者はマザーツリーやふれあいの道などのブナ林を散策し、ブナの森が雨を蓄える機能や樹幹を流れる雨の様子を観察。

また、秋田県側では、天候に恵まれ、藤里町で自然保護活動を行っている鎌田孝一氏の案内により、参加者は田苗代湿原、岳岱自然観察教育林のブナ林の私たちなどに耳を傾けながら秋の白神山地を満喫。



田苗代湿原と岳岱コースの様子

【参加者の声】シンポジウム会場からは、ブナの害虫ブナアオシャチホコの他地域の被害状況やブナ林を守るためなどに、ササを刈り払うことの是非について情報交換や意見がだされた。森を歩く集いでは、あいにくの天候であったが、参加者からは、雨に煙る神秘的な風景と相まって、深遠な世界を旅している気持ちになったなど満足との意見が出された。

国際森林年記念「グリーンフェア 2011」

関東森林管理局

【開催年月日】平成 23 年 4 月 29 日（昭和の日）

【開催場所】関東森林管理局

【イベント概要】

(1) 「国際森林年記念・絵画書道コンクール」表彰式

群馬県内の小学生を対象に募集した、絵画（テーマ：みんなの森林）と書道（御題：みんなの森林または国際森林年）作品の中から、部門ごとに主催、後援団体により選ばれた優秀な作品を7点表彰。また、高校生による「森林へのメッセージ」、「被災地復興へのメッセージ」を揮毫する書道パフォーマンスの実施。

- ・ 式典演奏（県立前橋東高等学校吹奏楽部）
- ・ 書道パフォーマンス（県立前橋東高等学校書道部）

※ 「国際森林年記念・絵画書道コンクール」後援団体

群馬県教育委員会・上毛新聞社・日本放送協会前橋放送局・群馬テレビエフエム群馬・群馬県緑化推進委員会

(2) 「国際森林年記念・絵画書道コンクール」応募作品の展示

(3) 体験コーナー

「樹木ラリー」、「丸太切り&椎茸駒打ち」、木の漢字クイズ

国際森林年のテーマ「森を歩く」にあわせ、局構内の樹木を巡る「樹木ラリー」を実施。

【参加者数】約 200 名



絵画の部 受賞作品



書道の部 受賞作品



表彰式の様子



式典演奏の様子



書道パフォーマンス(森へのメッセージ)



書道パフォーマンス
(被災地へのメッセージ)



樹木ラリー



シイタケの駒打ち体験

国際森林年記念「高尾の森・ふれあいと学びのキャンペーン」 －1985年国際森林年記念植栽地で親子間伐体験も－

関東森林管理局
(東京事務所)

【開催年月日】平成23年10月1日(土)～11月30日(水)

(於：高尾山とその周辺地区)

◆10月1日はキックオフイベント

◆10月2日～11月30日までキャンペーン期間

【参加者数】約2000人(キックオフイベントのみ)

【イベント開催趣旨】今年、国連が定めた国際森林年。世界共通のテーマは、「人々のための森林」。人々が森林との付き合い方を再度見つめ直すことが呼びかけられている。高尾の森では、秋の行楽シーズンに、様々な団体を取り組む高尾の森にふれ、学び、守り育てる行事等を広く紹介。(社)国土緑化推進機構の呼びかけで、高尾の森とその周辺で活動している様々な団体が相互に連携・協力して、森の恵みに感謝しつつ、その適切な保全と利用を登山者などに呼びかける「高尾の森・ふれあいと学びのキャンペーン」を開催中。



【イベント概要】

10月1日(午前)のキックオフイベントでは、1985年の国際森林年記念植栽木が間伐期になったので、約70名の親子が集まり、間伐を体験。午後は、高尾登山電鉄の清滝駅前広場で、国際森林年子ども大使「葉っぱのフレディ」による開会宣言に始まり、上田正樹さんのライブショー、チェーンソーアート、著名人のトークショー



などが行われた。多くの登山帰りの人々がイベントに足をとめた。



●11月末までのキャンペーン期間中には、下記の団体等により、23以上のイベントを実施(予定も含む)。

①関東森林管理局高尾森林センター：高尾山の巨樹巨木巡り、他9イベント

②京王電鉄：秋のスタンプハイク、他1イベント

③高尾登山電鉄：高尾山・写生コンクール、他2イベント

④八王子観光協会：高尾山ハイキングツアー、他2イベント

⑤東京都環境局：自然公園展

⑥高尾ビジターセンター：高尾山の歴史と自然 見て歩き、他2イベント

⑦森林インストラクター東京会：高尾山で秋の草花とふれあう散策、他1イベント



この他にも、⑧日本山岳会高尾の森づくり会、⑨高尾グリーンクラブ、⑩お日の森くらぶ、⑪早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター、⑫佐川急便・環境パートナーシップ会議⑬KDDI等も森に関するイベントを実施。

軽井沢「国際森林年」記念事業

中部森林管理局

【開催年月日】平成 23 年 6 月 12 日、8 月 21 日、27 日、9 月 11 日、11 月 5 日（予定）（計 5 回）

【参加者数】自然観察ツアー約 150 名、シンポジウム約 150 名、体験林業約 120 名

【イベント開催趣旨】東信森林管理署では、軽井沢町民で組織する軽井沢野生動物問題研究会クロス等との共催による「軽井沢国際森林年記念事業」を実施。

本事業は軽井沢の自然が昔から開発と保全という二項対立を抱え、豊かな自然環境そのものが最大の観光資源である一方、それを開発や利用することで経済社会を成り立たせてきた歴史がある中で、本年が国際森林年であることを踏まえ、これからの軽井沢町における人間社会と自然との持続可能な関係を考えることを目的に企画。

【イベント概要】

①自然観察ツアー

記念事業では、「カラマツの新緑を楽しむ」（6/12）、「自然と歴史を楽しむ」（8/27）などをテーマとした自然観察ツアーを実施。

②シンポジウム

「国際森林年を機に我々は森林とどうつきあうのか～軽井沢からの提言～」をテーマにシンポジウム（8/21）を開催。

③林業体験

「野生動物の生息エリアと人間の生活エリアとの緩衝帯をつくる」体験林業（9/11）を実施。

【参加者の声】参加者からは、「自然に関わることで自然が守られていることを理解した」、「人工林の働き、生物多様性を見直した」、「国産の木材を使わなければ」といった感想や、「森林整備にかかわっていきたい」「このような取組を続けてほしい」といった声が寄せられた。



有識者を招いたシンポジウム



森林観察を楽しむ参加者



野生動物との緩衝帯の作成に汗を流す

森林ふれあい講座

中部森林管理局

【開催年月日】平成23年2月5日、3月12日、6月11日、11月5日、12月10日、(5月28日、9月3日、10月15日は雨天中止)計8回企画・内5回実施

【参加者数】117名

【イベント開催趣旨】中部森林管理局名古屋事務所では、中部圏の行政の中心である200万人都市名古屋市にあって、名実ともに開かれた「国民の森」の実現に向けて、国民の皆様の要請を踏まえた森林環境教育や国民参加の森林づくり（情報の発信）を積極的に実施し、森林とのふれあい・森林の魅力を満喫していただく事を目的に企画。

【イベント概要】一般の方々を対象とした森林に関する講座を、熱田生涯学習センターと共催、瀬戸市まるとミュージアム・観光協会の後援をいただき、「国際森林年」のテーマである「森を歩く」を意識して実施。(8回企画しましたが、残念なことに台風や大雨により3回は中止)

【参加者の声】参加者からは、「森林に関する色々な話が聞け更に興味がわいた」、「ゆっくり観察でき自然を満喫できた」、「実際の作業現場を見ることにより、林業の大変さがわかった」といった声が寄せられた。



野鳥の観察 (H23. 2. 5)



里山保全とほたるの話 (H23. 6. 11)



しいたけ菌打ち体験 (H23. 3. 12)



間伐材伐出現場見学 (H23. 11. 5)

「水都おおさか森林（もり）の市2011」

近畿中国森林管理局

【開催年月日】平成23年10月8日（土）～9日（日）

【イベント内容】

昔から「水都」と呼ばれてきた大阪の「水源」は森林。「国際森林年」の今年、大阪市をはじめ近隣の都市住民に、人々の営みを支えてきた森林に目を向けてもらい、その重要性を伝えることを目的として開催。

森林・林業・水資源などの分野から約57もの出展テナントにより、丸太伐りや木工教室などの体験コーナーをはじめ、林産物・ふるさと製品の販売、地域活動団体の取組みも紹介。

また、ステージイベントやスタンプラリーを行いイベントを盛り上げた。また、丸太伐りや木工教室など体験コーナーを通じ、木にふれることで木の良さを知ってもらい、木材利用の促進を図られた。

【イベントの特徴】

「森林の市」は都市住民の皆さんに森林・林業や国有林の理解を深めることを目的に昭和62年から近畿中国森林管理局で開催してきたイベント。

平成19年からは、森林・林業に関わる行政機関や地方公共団体、木材関連団体、森林ボランティア団体等が協力して実行委員会を設置し、実行委員会方式で開催。森林・林業・河川、木材産業あるいは森林環境教育にかかわりのある人々が主体的に参画・協力して企画し、イベントを実施。

【参加者数】

約2万5千人



森林の市会場の模様



丸太伐りの模様

遊々の森『森の幼稚園ひかり』における森林教室

近畿中国森林管理局
(奈良森林管理事務所)

【開催年月日】平成23年6月4日(土)

【イベント開催趣旨】奈良森林管理事務所と遊々の森の協定を締結しているひかり幼稚園の園児を対象に、大亀谷国有林をフィールドとしてネイチャーゲームを行うことにより、森林や自然を大切にする気持ちを育てることを目的として森林教室を開催。

【イベント概要】園児達に自然界の色々な形や模様のおもしろさ、観察力を高めることを目的とした‘葉っぱじゃんけん’や森での様々な形を探すフィールドパターンを行った。園児達は動物と植物のつながりに興味を示し、お父さんやお母さんとまた一緒に来たいなどの感想も聞かれた。また、保護者の方々に対しては、森林の重要性や「国際森林年」のPRを行うことができた。

【参加者数】ひかり幼稚園年長園児・保護者 90名



会場の様子



ゲームの説明をする大西主幹



僕の葉っぱ大きいよ！



皆さんで記念撮影

魚梁瀬千本山と 100 年の歴史・森林鉄道遺産を訪ねるツアー

四国森林管理局

【開催年月日】 平成 23 年 6 月 5 日 於：高知県安田町及び馬路村

【イベント開催趣旨】 国際森林年の我が国のテーマは「森を歩く」とされており、四国森林管理局では国民の皆様に森林に親しみ、自然と触れ合うことで、森林に対する理解を深めていただくために、昭和 38 年に廃線となった魚梁瀬森林鉄道遺産と森林鉄道で運ばれたであろう丸太の大きさを今に伝える魚梁瀬の千本山を訪ねるツアーを森林鉄道ガイド（中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会）及び魚梁瀬森の案内人クラブの協力と連携して開催。

【イベント概要】

当日は雨模様でしたが、公募により、43 名が参加。最初の訪問地は、安田川沿いに残る明神口橋とオオムカエ隧道、馬路村入り口にレールが残された五味隧道。次は、魚梁瀬の丸山公園に復元された魚梁瀬森林鉄道に乗車。

最後は、魚梁瀬のシンボル千本山を訪れ、森の案内人の説明を聞きながら森を散策。参加者には美林が広がる展望台までみて貰いたかったのですが、雨により木道が滑り危険であるとの判断から、森の巨人百選の「橋の大杉」付近で見学してツアーを終了。



【参加者の声】 参加者からは、「歴史を大切に保存し、伝えていくことは意義のあることだと思った。」「ヤナセスギが大切に守られていることを知り嬉しかったです。癒されました。」等の声が聞かれました。

【参加者数】 43 名



国際森林年記念「四国の森林生物多様性保全シンポジウム」

四国森林管理局

【開催年月日】平成23年11月27日 於：高知県高知市

【イベント開催趣旨】今年の国際森林年及び昨年の国際生物多様性年を記念し、一般の方々に四国の森林に生息する野生動植物の現状と課題についてご理解いただくことを目的として、生物多様性保全シンポジウムを開催。

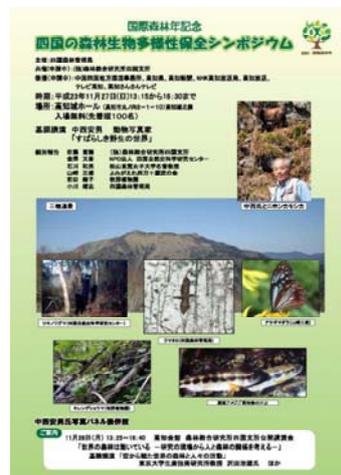
【イベント概要】

高知市わんぱくこうちアニマルランドの元職員で現在は動物写真家としてご活躍の中西安男氏から「すばらしき野生の世界」とのタイトルで、カモシカの生態や北海道など全国の動物、アフリカの大地での野生動物の様子などをすばらしい写真でご紹介いただく基調講演。

続いて、野生動植物の現状を元に生物多様性の保全に向けた取組方向に関して、四国各地において自然環境の維持のためにご活躍されている研究者等の方々（森林総合研究所四国支所の佐藤重穂氏、NPO 法人四国自然史科学研究センターの金澤文吾氏、松山東雲女子大名誉教授の石川和男氏、「よみがえれ四万十源流の会」の山崎三郎氏、高知県立牧野植物園の前田綾子氏の各氏及び当局計画課長）から報告。

【参加者の声】参加者からは、シカの食害のツキノワグマの生息環境への影響の程度やモウソウ竹の繁茂が生物多様性に及ぼす影響、シカ対策の取組など活発な質疑、意見交換。

【参加者数】80名



ポスター



中西 安男氏



金澤 文吾氏

国際森林年記念 『雲仙普賢岳』ふるさとの森林づくり植樹祭

九州森林管理局

【開催年月日】 平成23年10月30日（日）

【場 所】 長崎県島原市南千本木町 おしが谷

【参加者数】 約300名

【開催趣旨】 雲仙普賢岳においては、20年前の噴火に伴う火砕流の発生やその後の土石流の発生により多くの方々が犠牲になるなど、甚大な被害が発生。

九州森林管理局では、平成3年の大火砕流発生以降、20年にわたりその復旧に努めてきた。本年が国連の定める「国際森林年」であること、また、雲仙普賢岳の大規模火砕流発生から20年が経過する節目の年であることから、市民参加によりその火砕流発生跡地を、以前の森林に再生するとともに、参加者の皆さんに、森林の持つ公益的機能やその重要性等の理解を深めていただくことを目的に植樹祭を実施。

【主 催】 九州森林管理局、長崎森林管理署、毎日新聞社
つながる森づくり実行委員会

【後 援】 長崎県、島原市

【開催概要】 当日はあいにくの雨の中、来賓として島原市長、林野庁次長などが出席されたほか、地元の緑の少年団及び小学校児童、一般参加の方々やスタッフ等約300名の参加により、横浜国立大学 宮脇昭名誉教授の植樹指導を受け、面積0.34haに広葉樹（タブノキ・イチイガシ等11種）を3,400本植樹。



《植樹指導をされる宮脇先生》



《泥だらけでがんばる子供たち》



《雨の中植樹する参加者》



《植樹を楽しむ親子》

「国際照葉樹林サミット in 綾」

九州森林管理局

【開催年月日】平成23年5月21日（土）～22日（日）於：宮崎県東諸郡綾町

【イベント内容】

▼21日（土）：シンポジウム（基調講演、分科会別討議等）

①基調講演

- (1)「世界の照葉樹林の現状とその保全の重要性」大澤雅彦氏（マラヤ大学教授）
- (2)「中国・雲南省における照葉樹林帯の植物及びその利用」魯元学氏

②分科会でのテーマ別討議

- (1)照葉樹林を活かした地域づくり
- (2)里山照葉樹林の恵みと危機
- (3)照葉樹林・生活文化の発展的継承
- (4)体験分科会（親子で作る木工教室）

③ポスターセッション

④全体討議・大会宣言

▼22日（日）：現地見学会

- A 森林総研プロット見学とおおもりだけ大森岳林道散策
- B 綾南林道（多古羅）作業小屋～分校跡
- C 森林セラピー体験（川中国有林）
- D 猟師が案内する綾の森
- E 綾の森を一望するトレッキングルートめぐり
- F 綾ほんものセンター見学と伝統工芸めぐり



上・中：基調講演
下：現地見学会（B）

【イベントの特徴】

宮崎県綾町では、九州森林管理局、地方自治体（県・町）、市民団体、自然保護団体の5者が協定を締結。学術的にも貴重な日本最大規模の原生的な照葉樹林の保護や、周辺の人工林、二次林の照葉樹林への復元を推進中。

本年の国際森林年と国際生物多様性の日（毎年5月22日）を記念し開催。東アジアに分布する照葉樹林の生物多様性やそれが育んできた文化、照葉樹林の保全と利用に関する情報交換や交流を通じ、照葉樹林とそこに息づく文化を次世代により良い形で引き継ぐことを目的としたもの。

基調講演や各分科会等での議論を踏まえ全体討論を終えた後、「東アジア全体で危機的状况にある照葉樹林の保全を進め伝統的な知恵を将来にわたって発展的に継承し、持続可能な利用を広く推進する。」などとする大会宣言を採択。

二日目には、日本最大規模の照葉樹林を実際に訪れ、猟師や町のガイドらに案内されながら豊富な植物や林産物を利用した伝統芸能など森林の恵みを体感。

【参加者数】 シンポジウム：約500人、 現地見学会：約100人

